

5-7 マルクスの弁証法の革命性

ヘーゲルの弁証法は理念という名の思考過程が現実的なものの創造主であるが、マルクスにあては観念的なものは人間の頭の中で置き換えられ翻訳された物質的なものにほかならない。弁証法の合理的な核心を発見するためには、ヘーゲルの、頭で立っている弁証法をひっくり返さなければならない。合理的な姿での弁証法は、「現存するものの肯定的理解のうちに同時にまたその否定、その必然的没落の理解を含み、……その本質上批判的であり、革命的である」。(……は青山の省略) ②-[145]全文 (大月『資本論』 I 22-3)